



毎回ちがった表情に出会える

認定ファシリテーター 斎藤 恒之さん

教室全員の知的興味と興奮の目がこちらに向いてきて、何を伝えるか、どう伝えるかの工夫に奮い立つ緊張を感じながら、思いを込めて「情報にふれること」の大切さを伝える。

ビビットな反応もあれば、あどけない笑顔や言葉の反応もあり、教壇に立つ幸せにジーンと涙する……なんて夢をしながら声を張り上げ続ける50分間は、毎回ちがった表情に出会える本当に楽しい時間ですね！



稼いだお金のやりくりは  
近未来のリアル

認定ファシリテーター 川崎 美紀さん

お金について正面から学ぶチャンスは、ありそうでもないものです。

初めての話に戸惑う生徒もいますが、家賃、食費、通信費など、身近なことばに引き込まれていきます。

稼いだお金のやりくりをして生きていく、近未来のリアルだと気づき始めます。

「貯金は2万円弱にショック」「母が働いてくれることに感謝」「これからはよく考えてお金を使う」「やっぱり正社員をめざす」。そんな生徒の感想に背中を押され、次も頑張ろうと思ひ、私は臨んでいます。



少しでも手がかりとなる  
情報を届けたい

認定ファシリテーター 久保田 あきさん

ファシリテーターになって2年目。何回やっても授業はナマモノで、いつも反省点が尽きませんが、実施後のアンケートに「将来のために、学校は休まないようにする」「遅刻をなくしたい」など書いてくれているのを見ると、講師冥利に尽きます。

「就職や進学、お金のことを相談する相手がない」と回答する生徒が多い中、少しでも手がかりとなる情報が伝えられたかなと、いつもやりがいを感じて活動しています。

つい参加してしまう  
つい盛り上がってしまう

認定ファシリテーター/キャリア・ファシリテーター協会

山本 桂子さん

つい参加してしまう、盛り上がってしまう仕組みを持った優れたプログラムだと感じます。

最初はこちらを見てくれず、席替えもしてくれなかった生徒さんが、周りの友達との盛り上がりを見て途中から参加してくれたり、何クラスか合同の授業で普段話したことがない生徒さん同士でも、自然にカードを見せ合って打ち解けることができたり、学びや生徒さん同士の関わりへの入り口を提供できたと実感できることが多く、やりがいがあります。

生徒たちのポジティブな  
表情や態度は学びの成果

認定ファシリテーター 小澤 潔さん

2017年度は、ここ数年間で最多のマネコネ・プログラム・ファシリテーターを務めました。

心がけたことは、事前にHPにある学校経営シート等を確認し、プログラム実施への期待をイメージすること、教室ではできるだけ多くの生徒と触れ合うこと。

生徒たちのポジティブな表情や態度は、学びの成果の証し、「働く」「働き続ける」ことの自覚に繋がっていくことを願いながら、プログラム運営に参加しています。

無業予防をめざした金銭基礎教育プログラム

# MoneyConnection®

## 2017年度プログラム運営年次報告書



### 企業としての専門性や知識を活かして 株式会社新生銀行 グループ IR・広報部 GM 高橋 栄治

高校生を対象とした金融教育の重要性が高まる中、働くこととお金について考えるきっかけを提供するユニークな取り組みとしてMoneyConnection®への関心が高まっています。「教えるのではなく、情報を提供する」というスタンスや、生徒が楽しく取り組みながら多様な価値観に自然に気づき、将来について考えるきっかけをつかむといった内容が、学校関係者や若者の就業支援に関心を持つ人々から生徒と社会の接点になり得るポテンシャルを持ったプログラムだと理解され、共感を得ているからではないでしょうか。

数多くの金融教育プログラムがある中、教育現場でMoneyConnection®が選ばれる理由のひとつに、ファシリテーター認定制度によって高い授業の質が担保されている点が挙げられます。これもひとえに認定ファシ

リテーターのみなさまがスキル向上のために継続して研鑽を積まれる結果であり、その姿勢に敬意を表します。あわせてプログラムの運営と発展にご尽力いただき情熱を傾けてくださる全てのみなさまに深く感謝を申し上げます。

新生銀行グループでは、MoneyConnection®を「次世代の育成」をテーマとした社会貢献活動のもっとも重要な取り組みとして位置づけています。プログラムへの協賛とともに、新生銀行グループの社員が高等学校等で行われる授業にファシリテーターとして参加しており、社会貢献活動の実践の場としても活用させていただいています。今後もこの良質なプログラムをより多くの生徒に届けるため、企業としての専門性や知識を活かしながら積極的に支援を行なってまいります。

### 変化の激しい時代。土台形成が重要になる 認定NPO法人育て上げネット 理事長 工藤 啓

いま、「お金」「仕事」「生活」がかつてないほどに変化しています。技術革新により瞬時に資金が移動するようになり、暗号通貨/仮想通貨という新しい「お金」が流通し始めています。また、一社に所属して人生を終える時代から、複数の仕事や収入を持つことが当たり前になっています。特にインターネットを活用することで、いつでもどこでも仕事ができるようになりました。それは当然、子どもたちの「生活」を変えていきます。

変化の激しい時代に求められるのは、過去の常識にとらわれず、自分をアップデートさせていく姿勢です。しかし、自分の生き方や働き方に対する価値観という土台形成がなければ、変化に振り回されているだけになってしまいかねません。

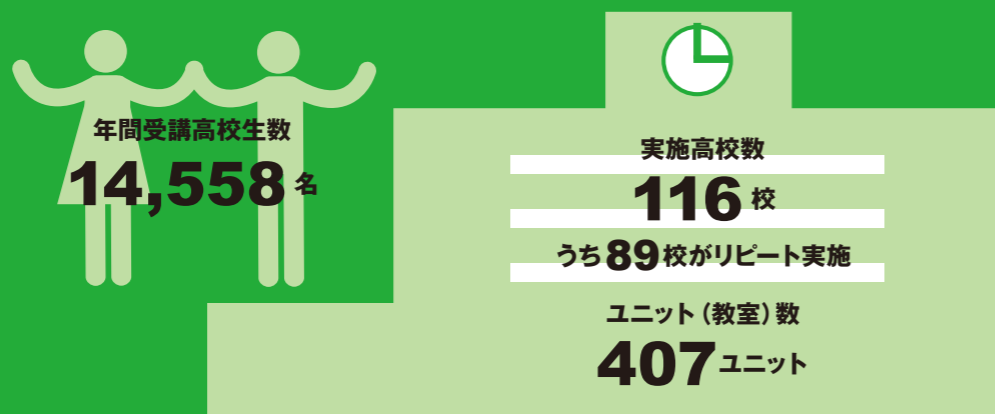
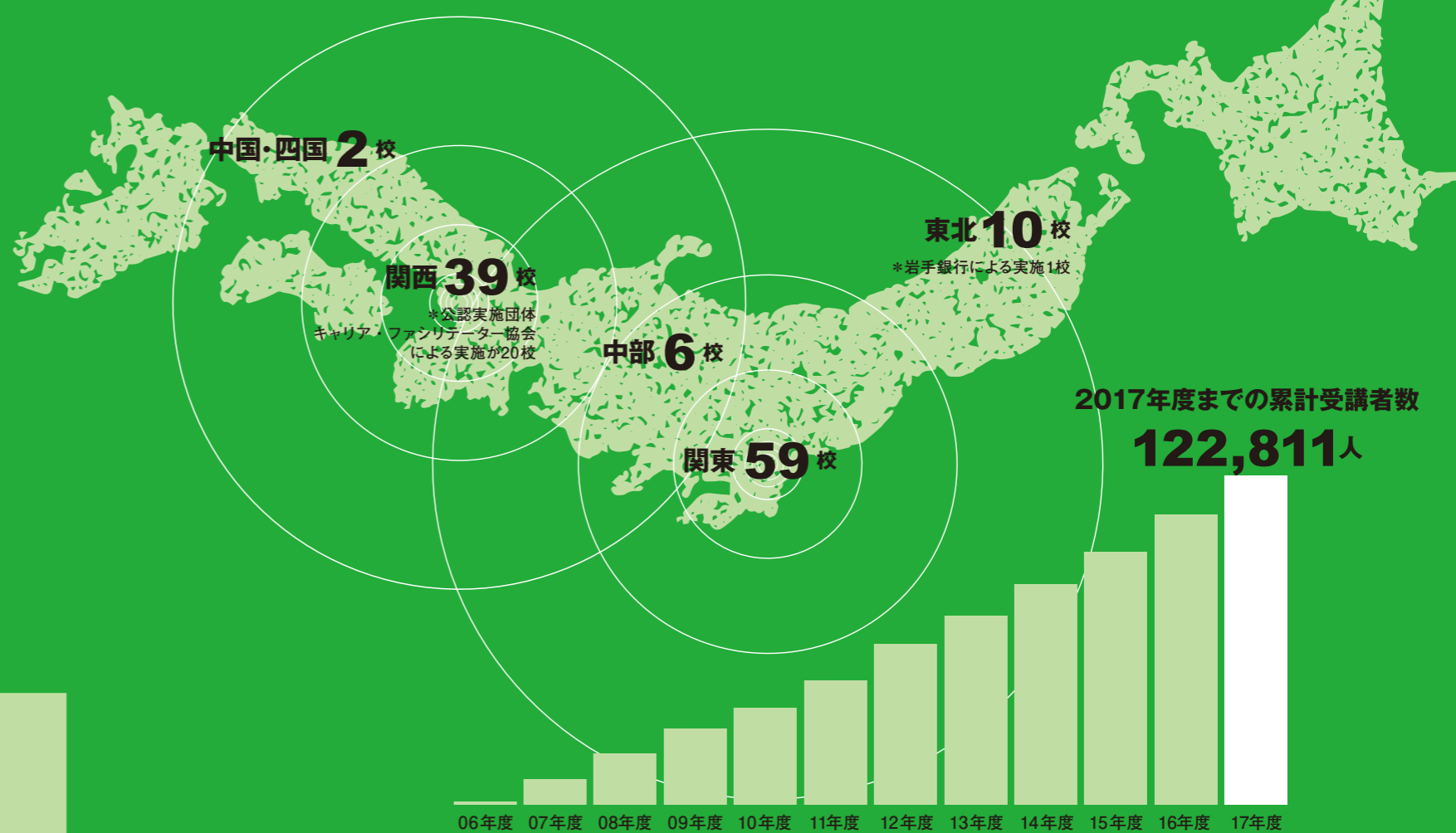
MoneyConnection®は、これから社会に出ていく子どもたちに対して、「お金」「仕事」「生活」における土台形成、価値観の醸成に寄与するプログラムです。そして、その最前線にいるのが認定ファシリテーターのみなさまです。

確固たる価値観の上に立ち、変化を受け入れる柔軟性を持ったみなさま方は、未来を創る子どもたちのため、研鑽を通じて質の高い授業を提供してくださっています。みなさま方との出会いは、子どもたちにとって少なからず人生に影響を与えるものだと考えています。

認定ファシリテーターとして、子どもたちに柔らかな眼差しを持って接する大人として、志を同じくして活動できることを幸せに思います。

## 2017年度の実施状況

2017年度は、受講者数 14,558 名・実施高校数 116 校・ユニット(教室)数 407 ユニットという実施状況となりました。2006年のプログラム提供開始からこれまでに、全国 122,811名、943校の高校へプログラムを提供してきました。2017年度は一昨年度、昨年度を超えるプログラムの提供となり、過去にプログラムを導入した学校によるリピート実施も増えました。その他にも、大学のキャリアセンターによる開催や専門学校での実施、若年無業者の就労支援機関での開催など、各地で拡がりを見せています。



MoneyConnection®

## 広島県で初実施

東洋経済オンラインの記事をご覧いただいた広島県立熊野高等学校の先生より本取り組みの趣旨に共感をいただき、広島県で初めてとなるプログラム実施が同校の1年生5クラスを対象に実現しました。当日は、研究授業として多くの先生方にも見学いただきました。また、朝日新聞社の取材もあり、後日、プログラムの紹介記事を掲載いただくことができました。これをきっかけに、中国地域での普及を進めていけるよう尽力いたします。

## リピート率の増加=リピート率 **77**%

2017年度は過去にプログラムを導入した学校によるリピート実施が、これまでの12年間で過去最高となる89校となりました。先生方より「安心して生徒を任せられることができる」「他学年の先生から評判を聞いて」等のお声をいただき、プログラムを3(4)年間の進路指導の中に体系的に位置付けて実施いただく学校も増えてきています。これもひとえに、生徒に「伝わる」プログラムの展開に向け、日々、創意工夫・研鑽いただいているファシリテーターのみなさまのご尽力に他なりません。心より感謝申し上げます。

たくさんのメディアに掲載されました。

東洋経済オンライン 2017.10.25

認定講師である井上洋市郎(カイヤポ代表取締役)さんによる寄稿。若年無業や貧困に陥るリスクが高い生徒たちに何を語るべきかが問われています。

「将来に興味がない」高校生に語るべき「言葉」  
<https://toyokeizai.net/articles/-/193489>

朝日新聞朝刊 2018.1.25

広島県立熊野高校で実施された当プログラムの様子取材していただきました。

将来の仕事は? 収入は?  
お金の基礎を熊野高校生学ぶ

START! 2017.12.12

さまざまな事例を通して金融教育の未来を考える事例の第1回として、当プログラムが紹介されました。

「学ぶ」から「考える」へ 金融教育の未来に向かって  
【第1回】金融はニートを防げるか  
<http://www.asahi.com/ad/start/articles/00090/>

## ファシリテータースキル向上の取り組み

2017年度は、「生徒にとって価値ある MoneyConnection® を届ける」をテーマに、前半は「プログラム運営のための土台づくり」として、ファシリテーターとしての想いの共有や日々の活動のリフレクションを行いました。

後半は、進行担当ファシリテーター、フロア担当ファシリテーターの役割の再整理について事務局より説明を行い、共通目的「プログラム目的を達成する」ことを改めて確認しました。

そのうえで、実際の学校の実施状況を想定し、進行担当、フロア担当の連携についてケーススタディ、ロールプレイングを行いました。さまざまな連携を必要とする場面や生徒状況を想定しながら、いかにして生徒を参加させるか、多様なアプローチ方法についての意見交換がありました。連携の仕方ひとつをとっても、生徒状況によってファシリテーションのチューニングが必要となることを確認しました。



## 2017年度総括と2018年度に向けて

2017年度は、これまで蒔いた種が少しずつ芽を出してきたことを実感する1年でした。

家庭科をはじめとした教科枠のなかでご担当の先生が独自にプログラムを提供されるケースも増えてきましたし、プログラムのリピートをしていただく学校も増加しています。少しでも多くの生徒が将来を考えていくきっかけを得て、不本意な進路選択により、将来、望まない無業状態に陥らないため、これからもできることを積み重ねていく所存です。

また、2018年度は、学習指導要領改訂(2022年度より本格実施)の柱の一つ「社会に開かれた教育課程」の実現に伴い、これからの学校現場では地域や社会との協働がより一層求められていきます。そのため、周知活動の強化を行い、未実施県での導入実現、教員向けプログラム体験会の開催、ニュースレターの制作、メディア露出件数の増加などに取り組んでまいります。

さらに、認定ファシリテーターのみならずともに、生徒により良いプログラムを届けるべく、勉強会の開催や現役教師によるリフレクション体験、授業展開ヒント集の作成等、スキルアップの機会を提供してまいります。